

## 所沢市の観光と地域経済

### ▼飛行機の始まりは所沢から

埼玉県の西部地域に位置する所沢市は、交通の利便性に恵まれていることから、首都圏有数のベッドタウンというイメージが強い。しかし、市内には狭山湖や所沢航空記念公園をはじめ、西武ドーム球場と西武園ゆうえんちなどの観光資源があり、観光都市としての一面も併せ持っている。最近では、人を街に呼び込むことを目的に商店街と連携した観光振興にも乗り出し、観光が地域経済に与える寄与度を高めるため、従来の観光政策からの転換を図り始めた。その姿勢は市の行政組織の改正にも表れ、新たな視点での取り組みが始まっている。

従来の所沢観光の目玉は、何と言っても航空発祥の地として全国的に知られている所沢航空記念公園と言える。1911年（明治44年）に、国内で初めての飛行場がこの所沢に開設され、徳川好敏陸軍大尉がフランス製の複葉機を操縦して初飛行を行ったという話は有名。以来、日本陸軍の飛行場として、戦後は米軍



日本初の飛行場跡地に整備された  
所沢航空記念公園内に展示されている実機



武蔵野の面影を残す雑木林が広がる緑豊かな狭山湖

の基地として利用されていたが、1971年（昭和46年）に基地の一部が返還され、1978年（昭和53年）に『埼玉県立所沢航空記念公園』として開園した。

約50ヘクタールの園内には、航空発祥の地に相応しく国産初の中型旅客機『YS-11』や『C-46』の実機が展示されているほか、航空機の歴史と仕組みなどが理解できるミュージアムの『所沢航空発祥記念館』などの施設がある。また、テニスコートや運動場、野球場、日本庭園、子ども冒険広場なども整備され、県西部地域のスポーツ・文化活動の拠点としても利用されている。緑や自然も豊富で、サクラやフジ、ユリノキ、アジサイなど四季を通して花も楽しめる。昨年は飛行場開設100周年記念の年だったことから、大勢の観光客でにぎわった。

所沢航空記念公園と同様に、昔から観光地として知られているのが『狭山湖』。正式名は『山口貯水池』という人造湖で、1934年（昭和9年）に当時の勝楽寺村と山口村の一部だった狭山丘陵に堰堤を築いて、東京の水がめとして完成した。湖畔の周りには雑木林が広

がり、緑豊かな武蔵野の情景を楽しむことができる県立狭山自然公園になっている。天気の良い日には湖面越しに望む富士山が見え、その美しさは日本の『ダム湖百選』にも選定された。春のサクラや秋の紅葉など四季折々に移ろう姿は、訪れた観光客の目を楽しませ、所沢一番の観光スポットとして愛されている。

### ▼野球場や遊園地が集客に貢献

一方で、市内で一番の集客力を誇るのが西武ドーム球場や遊園地、ゴルフ場などの西武グループが運営する施設。ドーム球場は言わずと知れたプロ野球の埼玉西武ライオンズの本拠地で、シーズン中はライオンズファンで球場は埋まる。『西武園ゆうえんち』は、約21万平方メートルの敷地に22機種のアトラクションが巧みに配置され、夏にはプールや花火、冬はスケートやイルミネーションも楽しめる。また、10月下旬から4月上旬までオープンしている『狭山スキー場』は、コースの全長が320メートルの人工ゲレンデ。初級者コースと中級者コースがあり、スノーボードやそり遊びも楽しめ、シーズン中は家族連れで賑わう。1964年（昭和39年）に開設された『西武園ゴルフ場』は、狭山丘陵を利用した18ホールのコース。近代的な建物のクラブハウスには18室のコンペルームがあり、プライベートから大型コンペまで幅広く利用できる。こうした西武グループの各施設だけで、毎年約500万人を越す所沢市の入込観光客数の3分の1以上を占めているという。

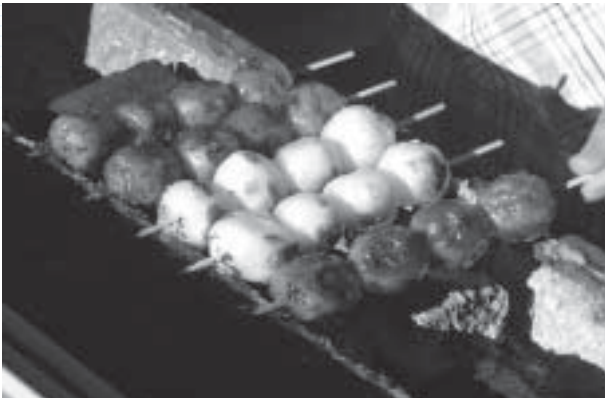
自然を散策する観光スポットも多彩で、江戸時代に開拓された『三富新田』はハイキン

グコースとして知られている。三富新田の三富は、新田が開発された時に上富、中富、下富という3つの村に大別されたことを総称したもので、現在も往時をしのばせる地割景観が残っているのが見どころ。付近には開拓民の祈願所として創建された『多聞院』があり、境内の毘沙門堂には武田信玄の守り本尊だったという純金の毘沙門天が祀られている。ボタンの寺としても有名で、毎年5月1日に行われる『寅まつり』の頃には、ボタンが満開となり多くの人出で賑わう。

所沢市内に古戦場があるのも有名で、小手指ヶ原は新田義貞軍と鎌倉幕府軍が合戦を繰り広げた場所。一帯には史跡が多く、柳瀬川に架かる『勢揃橋』は義貞が数万人の兵を勢揃いさせたことから名付けられている。また、将軍塚は義貞が陣を敷き、指揮を執ったとされる場所で、『白旗塚』は、前方後円墳型の塚の上に、義貞が源氏の白旗を掲げたという伝承がある史跡。ハイキングを兼ねた観光客が、新田氏ゆかりの史跡を探す姿が見られる観光スポットとして知られている。また、アニメ映画のトトロの森としても所沢は有名だが、残念ながら保存林の里山になっているため、森の中には入れない。しかし、グリーンツーリズムを楽しむ観光客が、この里山近くまで訪れているという。

### ▼観光農園にご当地グルメ

グリーンツーリズムの楽しみ方の一つとして、市内の観光農園もお勧めだ。冬から春にかけてはイチゴにタケノコ、そして梅。夏から秋にはブルーベリーにスモモ、ブドウやナ



こだわりのある焼きだんごは所沢のソウルフード

シも楽しめ、栗や柿も味わえる観光農園が20か所ほどあり、市内を観光しながら立ち寄って、季節の味覚を堪能するのも所沢の魅力となっている。

味覚と言えば、“手打うどん”と“焼だんご”が名物で、市民にとってのソウルフード。所沢でなぜ焼きだんごなのか由来は諸説あるが、一説には太田道灌が武蔵野で鷹狩りをした後、所沢付近に立ち寄り、地元の人々が醤油を付けて焼いた団子を出したのが始まりとも。田んぼが少ない所沢では、畑で作る陸稲（おかぼ）を美味しく食べる工夫から作られていたという。米の粉を熱湯で練って丸め、蒸したものを竹串に刺して醤油を塗って焼いた団子は歯ごたえ十分で、コクのある狭山茶と一緒に食べると、なお格別だという。いろいろとこだわりがあるらしく、伝統を受け継いだ団子屋は少なくなりましたが、創業100年を超える店を探して食べ歩くのもまた楽しい。

焼きだんごと同様に、昔からの“粉文化”が根付く手打ちうどんも見逃せない。もともと所沢地域は、火山灰土の耕地で水田がほとんどなく、代わりに麦が多く作られた。その

ため、古くから手打ちうどんが食されていたようで、市内には多くの店が点在している。代表的な“手打うどん”は、季節の野菜をさっとゆでた『かて（糧）』を、うどんと一緒につけ汁で食べる『かてうどん』が特徴。

### ▼四季折々の花見物も

最近は花だけを見に行く観光客は多いが、所沢には一年を通して観賞できる名所が豊富にある。所沢航空記念公園や狭山湖の桜、小手指の『砂川堀のしだれ桜』に、堀之内にある『金仙寺のしだれ桜』などは有名で、市内には桜の名所が多い。桜だけでなく多聞院のボタンをはじめ『藤森稻荷神社の藤』（北野）や、『滝の城址公園のかたくり』、『小手指駅前の花水木』、『全徳寺のロウバイ』（北野）、『永源寺の雪割草』（久米）なども、盛りになると大勢の観光客が訪れている。こうした花や史跡を保全する市民活動も活発で、雪割草や滝の城址、荒幡の富士には保存会や愛好会があり、観光振興に貢献しているという。

大勢の人を呼び込むためのイベントも多彩で、郷土芸能や祭りなどが一年を通して楽しめる。例えば『多聞院の寅まつり』や『北秋津の天王様』などだ。しかし、集客力から言えば『ところざわまつり』や『市民フェスティバル』が筆頭格。毎年10月の第2日曜日に、中心市街地で行われる『ところざわまつり』は、例年30万人以上の人出が繰り出す大イベントで、重松流のお囃子連を載せた山車の引き廻しに加え、神輿の練り歩きやパレードが行われ、夕闇が迫る頃には最高潮に達する。所沢航空記念公園内で10月の最終土・日曜日

に開催される市民フェスティバルも『ところざわまつり』と同様に30万人規模の一大イベント。市制施行30周年を記念して始まった市民が主催する祭典として知られている。

### ▼商店街の活性化で集客図る

地元商店街と連携した観光振興も盛んだ。拠点となるのが中心市街地活性化拠点施設の『野老澤町造商店』(通称：まちぞう)で、所沢駅西口と西所沢駅とを結ぶ中間点に開店している。店は1556年頃(弘治2年頃)に建築され、明治天皇の行在所(外出した時の仮の御所)として市の史跡に指定されている『齋藤家』の店舗部分を借りているもので、市と商工会議所が負担金を出して運営。観光を含めた所沢市のPRや情報を発信しながら地元の商店街と自治会、小中学校をつないで地域住民の交流に役立っている。



『野老澤町造商店』は中心市街地活性化の拠点施設

この拠点を中心に、商店街や自治会などが中心となって『とことこまちづくり実行委員会』が組織され、各種のイベントを企画実施しているが、春の『タワーまつり』や夏の『行灯廊火』、冬の『サンタをさがせ』は人気が高い。タワーまつりは、所沢駅西口一帯に高層マンションなどが立ち並んでいることから名付けられたもので、プロペ通りからファル

## 所沢市の主な観光資源一覧

●柳瀬荘…荘内の黄林閣は、1930年(昭和5年)に電力会社の創設に尽力した松永安左エ門が現在の東久留米市から移築したもの。武蔵野民家の遺構として国の重要文化財に指定されている。他に斜月亭(書院)や久木庵(茶室)などがある

●新田義貞ゆかりの地…小手指古戦場には新田軍と鎌倉幕府軍による合戦が繰り広げられ、勢揃橋や將軍塚、白旗塚など新田氏にまつわる史跡が多数残っている。



●滝の城址…室町時代に大石氏が築城したとされ、自然の要害堅固な縄張りを持つ戦国期の代表的な城跡。本丸跡には城山神社が祀られ、その南側は「滝の城址公園」になっている。

●小野家住宅…18世紀初頭に建築された入母屋茅葺の民家。当時の武蔵野における開拓農家の面影を残す建物の代表例として国の重要文化財に指定されている。



●所沢郷土美術館…幕末から明治時代にかけての医家の建物で、長屋門や土蔵を含めて国の登録有形文化財に指定されている。建物内には所沢在住の芸術家たちの作品を展示、長屋門の野老窯では陶芸教室が開かれている。

●新光寺…真言宗の寺。本尊は正観世音で奈良法隆寺の夢殿に似た八角堂で知られる。源頼朝が狩りの際に、休憩の場所として立ち寄ったという伝説がある。武蔵野33観音第10番札所。

マン通りを経て銀座通りを経由、元町交差点までを結ぶ商店街で行われている。各タワービルでは模擬店や金魚すくい、フリーマーケットなど趣向を凝らした店が出店するのが売り物。

行灯廊火は、エリア内に沢山の行灯を並べ、所沢の街を柔らかな明かりで包み込む夏の風物詩として定着した。模擬店やパレード、肝試しなどのイベントが盛りだくさんで、市外から訪れる観光客も多い。昨年12月に行われたサンタをさがせでは、航空100周年にちなんで100人のサンタが街中に散らばり、参加者は100円で購入したビンゴカードを手に、サンタを探し回った。毎年、見事にビンゴすると豪華な賞品がもらえるほか、サンタのパレードやクリスマス音楽が流れ、ロマンチックな雰囲気演出している。

最近では、若手の店主が中心となって新たなイベントを企画、大きな話題となった。合

同コンパイルイベントの“街コン”を“所コン”と名付けて、まちの活性化と出会いの場を提供することを目的に、今年2月に初めて行われ、男女約900人の若者が参加し、複数の飲食店を回りながら相手を見つけ会った。この企画も地元商店街への経済効果は大きく、900人の参加費を単純に計算すると、1日わずか4時間で520万円近くの直接効果があったという。

こうした所沢の観光をPRするため、2009年（平成21年）に観光大使を設置し、現在プロバスケットチームの『埼玉ブロンコス』とコーラスグループの『ジュレップス』に委嘱。全国で試合やコンサートが開かれることを利用して、所沢観光の魅力と情報の発信をお願いしている。

### ▼行政も前面に出て観光振興

所沢市では豊富な観光資源と、交通アクセ

- **山口観音**…弘法大師の開基と言われる真言宗の寺。絵馬や天井一面に描かれた墨絵の竜、千手観音などが有名、貴重な文化財が多くある。武蔵野33観音第13番札所。



- **東福寺**…真言宗の寺で阿彌陀堂の本尊阿彌陀如来像や両界曼荼羅は市の指定文化財。境内の大きな観音像は目を見張る。



- **狭山不動尊**…天台宗の寺。国の重要文化財に指定されている旧台徳院（徳川第二代将軍秀忠）霊廟勅額門や御成門、丁子門など由緒ある建造物が全国各地から移築されている。



- **薬王寺**…曹洞宗の寺で、新田義宗（義貞の子）が足利尊氏と戦って敗れ、ここで再起を図ったが果たせずに亡くなったと言われている。境内には江戸後期の女流俳人「野遊亭理恵女」の句碑がある。

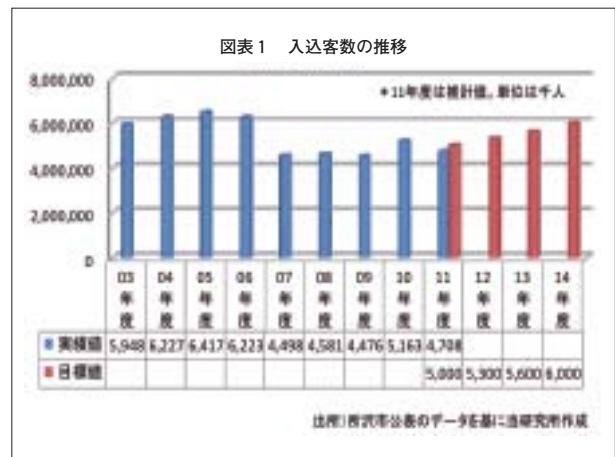


スに恵まれた立地条件を生かして観光客を受け入れてきたが、行政の立場からは目立つようなことはなく、裏方の存在に徹してきた。しかし、地域経済に寄与した観光をより一層振興させるため、今年4月から観光振興を担当する部署として『商業観光課』を設置、それまでの課内の一窓口だった『観光担当』を“昇格”させた。その結果、隠れていた存在から陽の当たる部署へと転身したことで、今後は所沢の観光振興に大きな変化が出てくるだろう。

2010年（平成22年）の入込観光客数は約516万人で、その大半の集客を西武グループ運営の野球場や遊園地などの施設が担っている。市商業観光課では、この入込観光客数を毎年30-50万人程度の底上げを図って、2014年度末には600万人の大台に乗せたいと考えている（図表1）。そのためには、西武グループの施設とさらに連携を深め、政令指定都市以

外では珍しいプロ野球とプロバスケットチームの本拠地という利点を十分に生かしていきたいとしている。

一方で、新たな観光資源の発掘にも積極的に取り組むことにしているが、既存の資源でもソフトとハードをうまく結びつけることによって、シナジー効果を発揮させる方策も模索していく。例えば、所沢航空記念公園をはじめ、市内にはテレビドラマや映画、CMの



●狭山丘陵いきものふれあいの里…狭山丘陵の身近な自然とのふれあいを通して学ぶ自然の展示施設で、雑木林や谷戸、湿地で構成されている。植物約1,000種、昆虫類約1,000種、鳥類約200種が息するとされ、都市近郊の「緑の孤島」とも言える場所。

●ゆり園…2005年（平成17年）にユネスコ村の跡地にオープン。約3万㎡の自然林の中に50種・45万株のユリが植栽されている。「自然観察コース」（約1km）と「らくらく観賞コース」（100m）があり、森林浴しながら楽しめる。



●埋蔵文化財調査センター…市内で発掘された石器や土器を保存、展示している。国指定の「ミヤコタナゴ」の保護、増殖にも取り組んでいる。

●東川の桜並木…当初は東京オリンピックを記念して、西新井町から牛沼に至る全長約2kmの両岸に180本が植栽された。現在では松郷までの約3km、約400本の桜並木となっている。夜桜も楽しめる。



●藤森稲荷神社の藤…小さな神社だが、樹齢百数十年の藤の老木があり、境内いっぱい張り巡らされた藤棚に咲き乱れる様は見事。例年4月下旬が見ごろ。

●小手指駅の花水木…区画整理を記念して駅北口から約500mに植えられた。現在はハナミズキ通りと呼ばれ、4月下旬には地元商店街によるハナミズキ祭りが盛大に行われる。

●比良の丘…狭山丘陵の西端に位置し、所沢で最も標高の高い丘。近くにはブドウ園や金仙寺、早稲田大学がある。

ロケ地としても自薦できる場所が多いため、「積極的にロケを誘致して観光PRができないかと思っている」と植村里美課長。

今年度中には、市内の観光スポットや祭事などのイベントをコンパクトにまとめたDVDも製作する予定で、インターネットのユーチューブにも観光情報を発信するなどして積極的にPRしていく計画だ。同時に、西武鉄道でつながる周辺自治体とも連携して観光客を呼び込みたい考えで、県内だけでなく東京都の東村山市や清瀬市との連携を模索していると言う。また西武鉄道は近く、東急東横線・横浜高速鉄道みなとみらい線に相互乗り入れを計画している。商業観光課としても、神奈川県方面からの観光客増加を図る機会と捉え、PR策を検討しているようだ。

一方で課題も多い。最大のネックはベッドタウンとして発展してきたため、大企業の集積が進まずビジネスホテルを含めた宿泊施設

が不足していることだ。しかも、国際会議や業界団体などの全国大会が開催できる大規模な会議場を備えた宿泊施設がなく、一度に大勢の入込客を呼び込むチャンスを逃している。このウィークポイントを克服しながら、入込観光客の増加を図ることは並大抵なことではないが、「課題を認識しながら他の方策で観光客の誘致を進めていきたい」と商業観光課では話す。基本的な考え方としては、都心から30キロ圏内という立地条件を生かして、日帰り観光客の誘致に特化した観光振興が挙げられる。そのためには、市外や県外から呼び込める魅力ある観光資源のアピールや、新たな観光資源の発掘などを積極的に進めていかなければならない。4月に開設されたばかりの商業観光課には、まだ荷が重い取り組みばかりだろうが、昔に比べ所沢の観光イメージが薄れている今、早急に新たな観光ブランドを確立させることが同課に求められている。

(写真提供：所沢市商業観光課)

- **多間院のボタン**…観光協会の花の名所づくりで植えられ、今では300本を超すボタンが大輪の花を咲かせる。5月1日に行われる寅まつりと合わせて多くの観光客が訪れる。



- **市民の森**…荒幡、牛沼、若狭の3か所あり、武蔵野の面影を残している。名前通り、市民の憩いの場と親しまれているが、ウォーキングツーリズムで市外から訪れる人も多い。



- **北秋津の天王様**…毎年7月15日に近い土・日曜日に行われる行事。八雲神社での神事後、神輿が町内を回る。神輿の火渡りは最大の特徴で、厄除けの意味があると言われている。

- **ところざわまつり**…明治時代の初期、神明社の秋の祭礼を母体に始まったとされる山車祭り。現在は10月の第2日曜日に行われている。山車の引き廻しと神輿やパレードなどで熱気ある祭りとなっている。



- **市民フェスティバル**…1980年(昭和55年)の市政施行30周年を記念して始まった。市民が主催する祭典として、10月の最終土・日曜日に行われ、数十万人の人出で盛り上がる。